#### 第58番 仙遊寺

- ●愛媛県今治市玉川町別所甲483 ☎0898-55-2141
- ●宿坊/あり(要予約)



#### 第59番 国分寺

- ●愛媛県今治市国分4-1-33 ☎0898-48-0533
- ●宿坊/なし



## 沿線の見どころ



#### 伊予桜井漆器会館

約250年の歴史を持つ愛媛の 伝統工芸、桜井漆器。伊予桜 井漆器会館では、箸や小皿、弁 当箱などの日用品から、ガラス に蒔絵を施したアート感覚の 「花クリスタル」まで、幅広いる。 品が展示販売されている。 造工程を見学できるほか、では カップやスプーンなど食器に添 器製品を取り入れている。



### 境内の見どころ



#### 千体地蔵

本堂脇に並ぶのは、昭和の中頃から数多くの人たちが願を掛けて設置してきたというお地蔵様。大切な人の供養のためだったり、先祖供養のためだったりと、その理由は様々だ。お地蔵様は、一つひとつ表情や形が違っている。中央には、それらを見守るかのように弘法大師像が祀られている。



# 境内の見どころ



#### 八十八ヶ所御砂踏

急な山道を上りきった境内の片隅には、修行大師像が祀られており、その周りを四国八十八ヶ所霊場の本尊の石仏がぐるりととり囲んでいる。すべての霊場をまわれないという人も、このお砂踏でじっくりとお参りをすればご利益があるという。また、大師像や石仏の醸し出す風情も、幽玄の趣に満ちている。





JAPAN HEDITAGE

日本遺産

# 日本遺産「四国遍路 | ~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



第58番

# 作礼山仙遊寺

されいざん せんこういん せんゆう

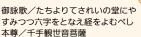
# 仙人が遊んだという伝説が残る寺

#### 歴史•全体像

海抜約300mの作礼山(されいざん)の山上にあり、「おされさん」の愛称で親しまれている。天智天皇(626~672)の勅願により国主・越智守興が堂宇を建立。海からあがった竜女が彫り上げたという千手観世音菩薩が本尊。竜女は竜登川を伝って作礼山にやってきたが、一刀刻むごとに三度礼拝していた。作礼山の名は、このエピソードに由来している。養老2年(718)までは、阿坊仙人が読経三昧の日々を送り、諸堂を整えた。平安時代には弘法大師が巡錫、荒廃した寺を再興して寺運を盛り上げた。明治時代には、宥蓮(ゆうれん)上人という高僧が山主となり信仰を集めたという。

# 境内

境内には、宥蓮上人を供養する五輪塔が建立されている。また、水神さんをお祀りした放生池のそばには真新しい山門があり、これは子息の菩提を弔うために、ある夫婦が建立したもの。昭和22年(1947)の山火事で全堂が灰になったが、本堂は昭和28年(1953)に再建された、二層屋根の堂々とした建物である。本堂裏にある西浄は、身体障害者用のトイレを備えた立派なもの。境内からは今治市街や瀬戸内海の多島美が一望できる。山門からの歩き参道は、シャクナゲや紅葉など、四季折々の自然が目を楽しませてくれる。裏山には西国三十三所の観音石仏が点在している。



真言/おん ばざら たらま きりく 宗派/高野山真言宗

開基/越智守興









日本遺産

